いきいき行田人（ぎょうだじん）

第53回埼玉県硬筆中央展覧会で埼玉県知事賞を受賞

杉野 彩名さん（13歳・富士見町）

県内各地の小・中学校、高等学校などから選ばれた約5千点の優秀作品が展示される「埼玉県硬筆中央展覧会」（以下、中央展覧会）。今年で53回目を迎えた歴史ある展覧会で、最優秀賞に当たる埼玉県知事賞を受賞したのが、長野中学校1年の杉野彩名さんです。

杉野さんは、幼いころから字を書くことが大好きな女の子で、よく両親や友だちに手紙を書いていたそうです。小学3年生のときに書道教室に通い始め、その1年後には、県の硬筆展や書き初め展で埼玉県教育長賞や推薦賞を受賞するほどの腕前に。その後も書道教室で技術を磨き、小学校を卒業するまでに栄えある賞に何度も輝きました。

今回、初めて県知事賞を受賞しましたが、中学校は硬筆でペンを使用するため、初めはとても戸惑ったそうです。杉野さんは「小学校のときの硬筆は鉛筆で書くのですが、これまでと同じ筆圧で書くとペン先が潰れてしまい、手本どおりの文字を表現することがなかなかできませんでした。ペンを持つことが怖くなってしまった時期もありました」と振り返ります。それでも、自分の筆圧に合ったペンに出会ってからは、太さやバランスが整った線を表現できるように。また、時間がある限り書道教室に通い、苦手な文字を何度も書き続けたことで、徐々に理想的な文字を書けるようになりました。

いつか自分が納得できる作品ができることを信じて、杉野さんは約1カ月間、集中して中央展覧会への作品作りに励みました。そして提出期限前日の夜、ついに集大成というべき作品が完成したのです。1時間以上かけて仕上げた作品を見て、「今までやってきたことを全て詰め込むことができた」とすがすがしい気持ちになったそうです。

今回の県知事賞受賞を受け、杉野さんは「まさか自分が最高の賞をいただけるなんて信じられませんでした。でもこれで、書道教室の先生や書道教室まで送迎をしてくれた両親、私を応援してくださった小・中学校の先生や友人に恩返しできたかなと思います」と語ります。「将来、どんな職業に就いても、字を書くことを大切にしていきたいです。字を書いていると、自然と心が落ち着きます」と字を書くことへの思いを笑顔で語る杉野さんは、澄んだ瞳を輝かせながら喜びの表情を浮かべていました。

私の作品

◎皆さんの作品を募集しています。
◎俳句は毎月5日までに、はがき・封書で広報広聴課へご応募ください。

俳句

矢場　中根　和子
浮き城の径へ偶さか合歓の花

富士見町　おおば水杜
炎天や罪を担ひて坂上る

城西　鈴木　正夫
我が家にも月下美人の夜が来た

下忍　島﨑　もと
大甕に蓮一輪の寺がまへ

谷郷　鴇﨑　信行
病葉を癒やしてどこへ忍の川

矢場　鈴木かづの
夏祭り鰡背（いなせ）な男（おとこ）のバチ捌き

荒木　国島　初江
盆がきて先祖を偲び盂蘭盆会（うらぼんえ）

須加　原　ちか子
香水やつけて大人の仲間入り

谷郷　大谷　峯生
そっと置く西瓜の重み手より抜く

天満　青柳　欣吾
発泡酒身体にしみる酷暑かな

荒木　藤田　明枝
秋うらら靴音はまだ元気です

城西　西田吉之助
夏祭囃子（はやし）の稽古遠く聞く

持田　小倉　繁三
古代人見し蓮花が眼の前に

斉条　小林　英与
畔廻り安堵の頬に青田風

城南　関口　操
ひたすらに鳴くこと命法師蟬

谷郷　豊田　蓮里
梅雨入りや孫の名残る忘れ傘

長野　野中せき子
着こなしに老いを見せずに白絣（しろがすり）

城西　新井喜榮子
忙しく夏を惜しむか蟬の声

棚田町　春田　枕流
現世（うつしよ）に清く開くや古代蓮

（三沢　一水　監修）

はじめまして

★★★ 平成25年 9月生まれ のおともだち ★★★

平成25年11月生まれのお子さんを募集します

○9月1日(月)～30日(火)に電話またはEメールで広報広聴課広報広聴担当(内線318)
※応募要領は市ホームページをご覧ください。
○応募者多数の場合は、10月2日(木)午前11時から市役所203会議室で公開抽選を行います。

後藤 倖乃（ゆきの）ちゃん（谷郷）
平成25年9月17日生まれ
父・祐一さん　母・さつきさん
「倖乃はパパとママの元気の源だヨ♡」

松本 真実（まみ）ちゃん（清水町）
平成25年9月8日生まれ
父・純一さん　母・一美さん
「兄妹仲良く♡ 笑顔いっぱい♡」

小峰 己槻（きづき）ちゃん（棚田町）
平成25年9月22日生まれ
父・重哲さん　母・結香さん
「兄弟仲良く 大きくなーれ♡」

橋本 理句（りく）ちゃん（持田）
平成25年9月3日生まれ
父・裕史さん　母・理恵子さん
「我が家の わんぱくプリンス☆」

新井 瑠莉（るり）ちゃん（持田）
平成25年9月7日生まれ
父・康之さん　母・詠美さん
「のびのび明るく 毎日楽しく☆」

大久保 柚妃（ゆずひ）ちゃん（佐間）
平成25年9月14日生まれ
父・紀希さん　母・瑞穂さん
「我が家のアイドル♡」

ぎょうだの会社をクローズアップ!!

株式会社武蔵野ユニフォーム

作業着を通して社会に貢献。そして行田の足袋を世界に

昭和35年、金子商店として創業し、昭和49年に現在の社名となった株式会社武蔵野ユニフォーム。株式会社となってから今年で40周年を迎えました。

「ユニフォーム」と聞くと、スポーツで着用する服をイメージしがちですが、同社の商品は、企業向けの作業着や事務服が中心。「会社のユニフォーム」である作業着や事務服に社名や社員の名前などを刺しゅうし、付加価値を付けて提供しています。今では一般的ですが、以前は、作業着に刺しゅうをする会社は少なく、お客さまから大変喜ばれたそうです。現在では、刺しゅうはもちろん一人一人の体型や職場環境に応じた作業着を製作するなど、きめ細やかなサービスを提供し、お客さまの厚い信頼を得ています。「発注を受けた企業から『社員が以前にも増して効率的に仕事ができるようになった』との言葉をいただいたときは、とても感動しました。1着の作業着で会社が変わることを改めて認識しました」と代表取締役社長の小松和弘さんは笑顔で語ります。

また、同社は新たな試みとして、主に若者をターゲットにした和風小物の製作・販売を行っています。その中でも代表的な商品は、水玉模様や動物柄など カラフルでおしゃれな「POP足袋」。「全国に誇れる行田の『足袋』を未来に引き継ぐとともに、若者にもカジュアルに履いてほしい」という小松さんの思いから平成24年5月に誕生しました。

徐々にPOP足袋の注文が増える中、今年の6月、大きくPRするチャンスが到来しました。それは、親日国であるサンマリノ共和国駐日大使と交流のある小松さんが、同共和国で日本の神社が建立される際、その式典に招待されたのです。小松さんは、式典の会場でPOP足袋をPR。斬新でカラフルなデザインの同社の足袋がヨーロッパの方の目を引き、とても高い評価を受けました。9月には、同神社付近に建てられた土産物店での販売も決定し、ますますPOP足袋の生産に力が入っているそうです。

お客さまのニーズに合わせた対応と新たな商品を開発する企画力を兼ね備えた同社。日本はもとより世界を舞台に活躍する日はすぐそこです。

会社プロフィール
代表取締役社長　小松 和弘
【事業内容】衣料品および地元グッズの製造、販売

※このコーナーで紹介する会社を募集しています。
特色ある業務を行っている会社の情報を広報広聴課広報広聴担当(内線318)までお寄せください。